

TMRセンターをめぐる情勢

(TMRセンター調査結果より)

平成 2 9 年 2 月

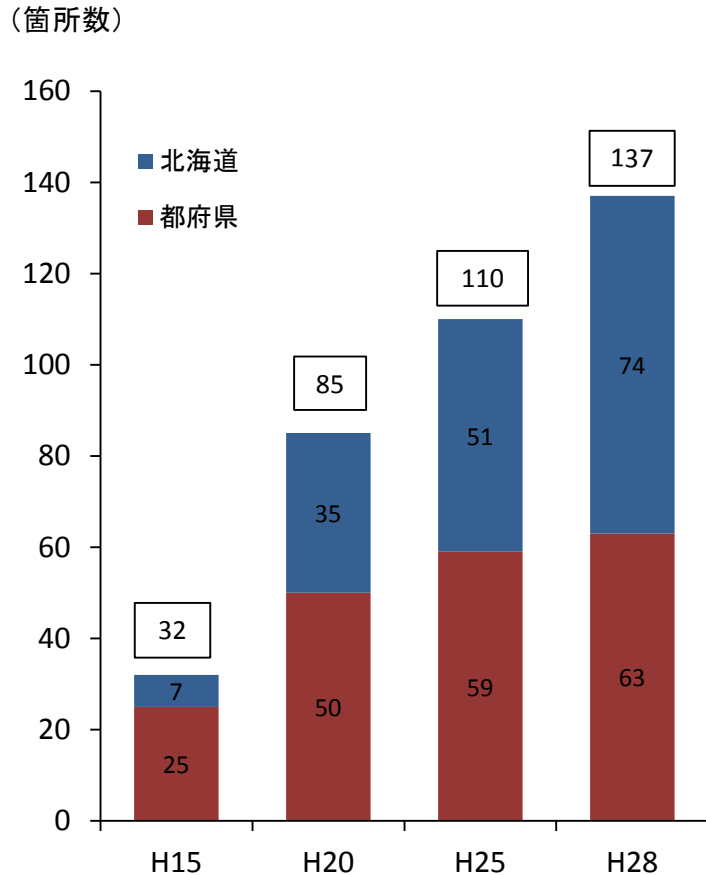
農林水産省

TMRセンターの数と経営形態

- ・ TMRセンターは、平成15年の32箇所から平成28年には137箇所増加し、北海道が全国の5割を占めている。
- ・ 経営形態については、北海道の8割、都府県の7割が会社形態であり、北海道では3割、都府県では5割が株式会社となっている。

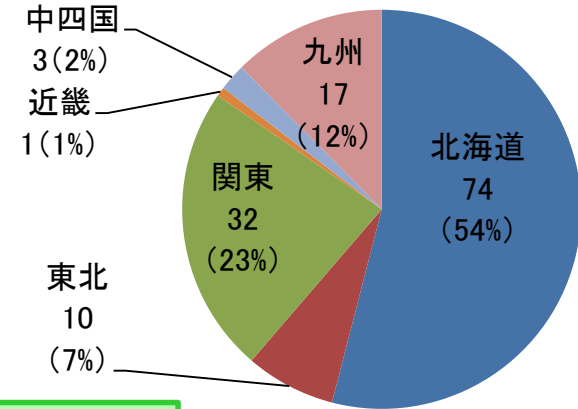
※上記各割合は、回答総数に占める割合(以下同じ)

箇所数の推移

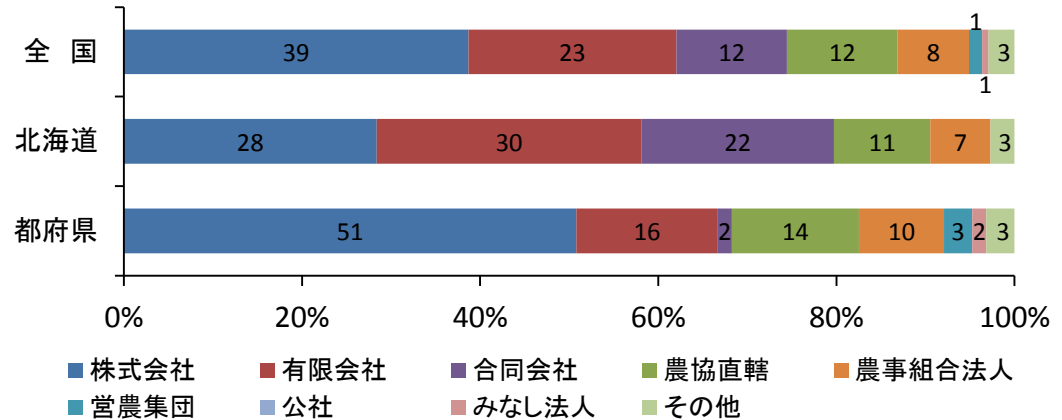


資料)農林水産省畜産部飼料課調べ

地域別箇所数、割合(H28)



経営形態別割合(H28)

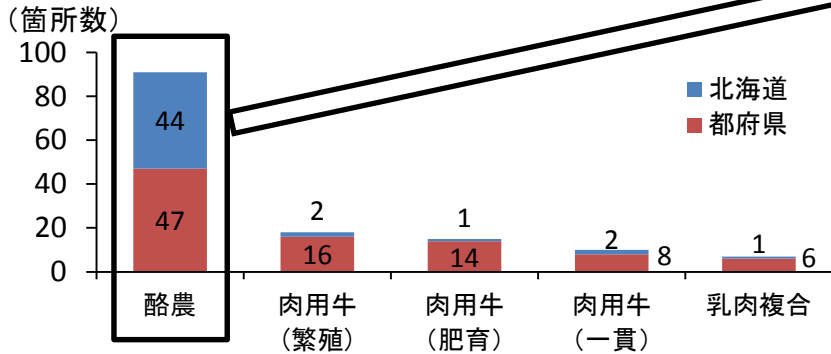


注)全国137箇所(北海道74、都府県63)

TMRセンターの飼料供給状況(H26)

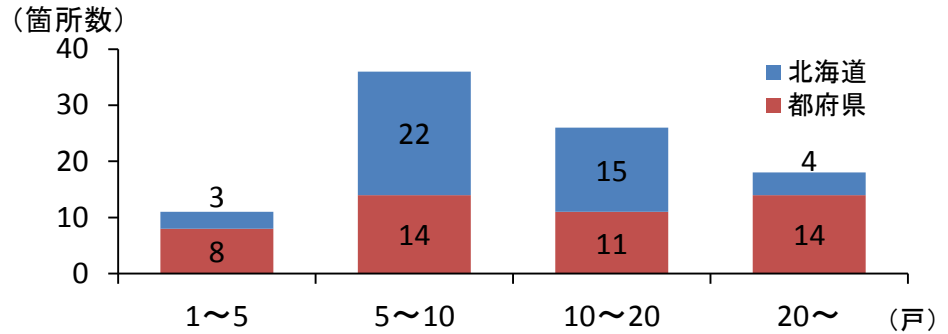
- ・ TMRセンターの9割以上が酪農向けのTMRを供給。都府県では北海道と比較し、肉用牛向けに供給するTMRセンターの割合が高い。
- ・ 1箇所当たりの供給頭数の平均は、北海道、都府県ともに約1.2千頭であり、供給数量の平均は、北海道が約22.3千トン、都府県が約8.2千トンとなっている。

供給先農家の経営



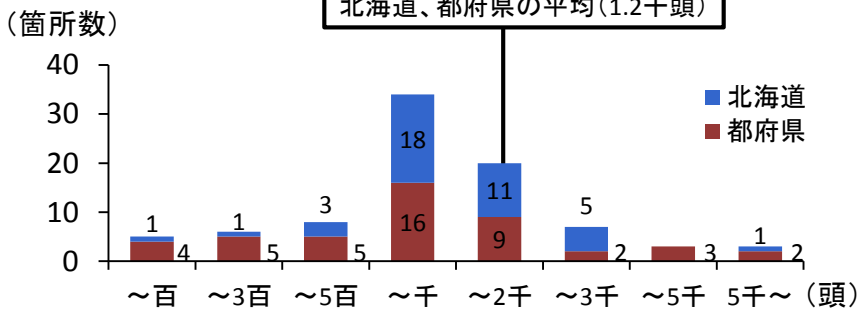
注) 回答数: 97箇所 (北海道44、都府県53) ※複数回答あり

供給先酪農家戸数



注) 回答数: 91箇所 (北海道44、都府県47)

供給頭数



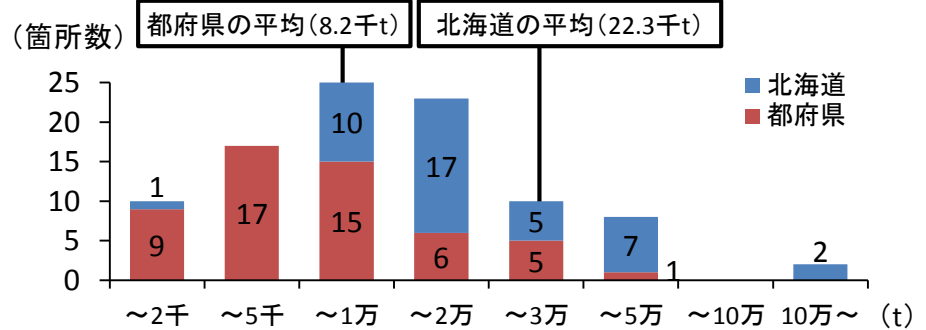
北海道、都府県の平均(1.2千頭)

注1) 回答数: 86箇所 (北海道40、都府県46)

注2) 乳用牛、肉用牛の合計頭数

注3) 北海道、都府県の平均は各階層の中間値と組織数をもとに加重平均して算出

TMR供給数量



注1) 回答数: 95箇所 (北海道42、都府県53)

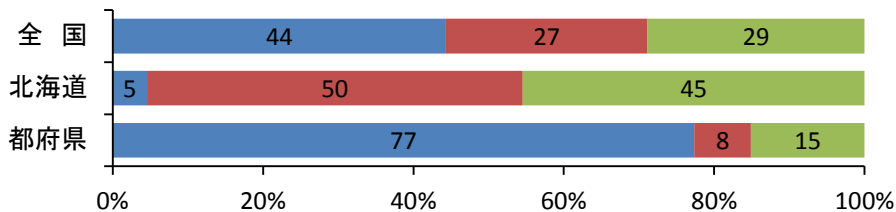
注2) 乳用牛、肉用牛向けの合計数量

注3) 北海道、都府県の平均は各階層の中間値と組織数をもとに加重平均して算出

TMRセンターにおける粗飼料の調達状況等 (H26)

- ・ 全国のTMRセンターの7割が、TMRの製造・供給のみの業務を実施。
- ・ 北海道では、構成員による粗飼料生産又は自らのコントラクター活動により、粗飼料を調達しており、TMR原料の粗飼料に占める国産の割合が9割以上と高い。都府県では、TMR原料の粗飼料に占める外国産の割合が高い。

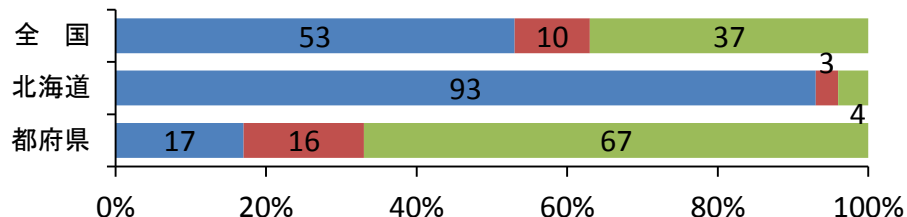
TMRセンターの業務



■ TMR製造・供給のみ (全ての原料を購入) ■ TMR製造・供給のみ (構成員が原料生産) ■ TMR供給とコントラクター活動

注) 回答数: 97箇所 (北海道44、都府県53)

TMR原料のうち、粗飼料の調達割合

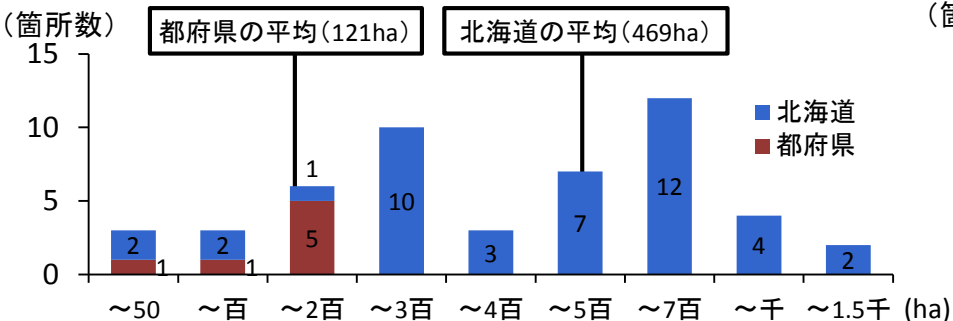


■ 粗飼料を自ら生産 ■ 国産粗飼料を購入 ■ 輸入粗飼料を購入

注) 回答のあった91箇所 (北海道43、都府県48) の平均

粗飼料生産面積

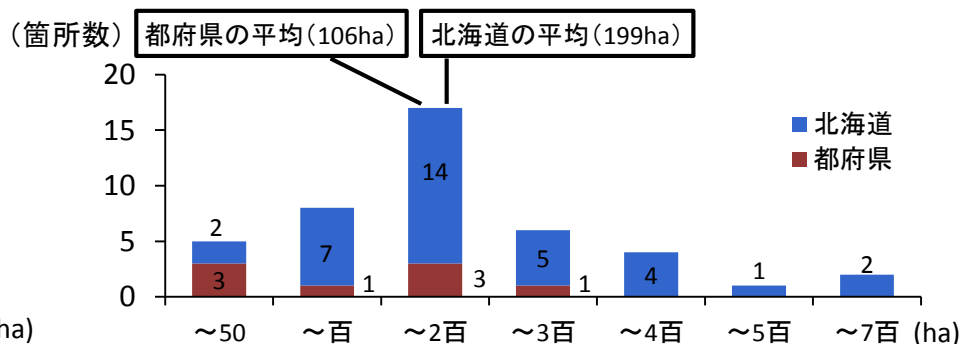
牧草



注1) 回答数: 50箇所 (北海道43、都府県7)

注2) 北海道、都府県の平均は各階層の中間値と組織数をもとに加重平均して算出

コーンサイレージ



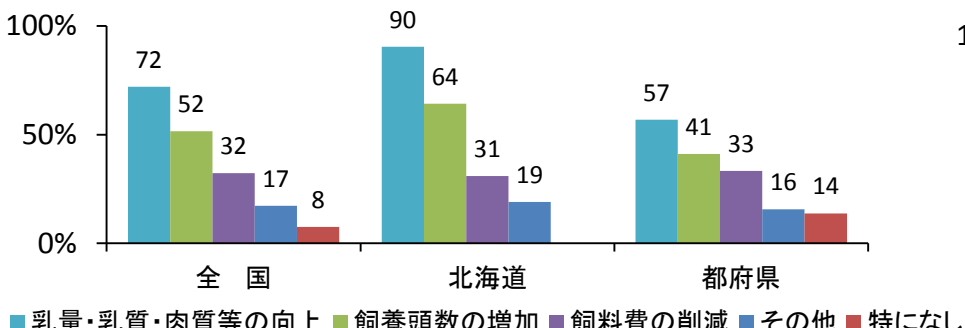
注1) 回答数: 43箇所 (北海道35、都府県8)

注2) 北海道、都府県の平均は各階層の中間値と組織数をもとに加重平均して算出

TMRの取組の効果と課題(H26)

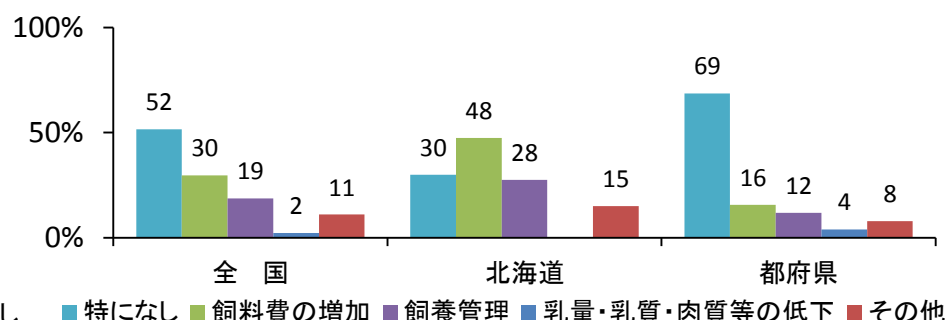
- ・ TMR利用による構成員の経営への効果については、「乳量・乳質・肉質等の向上」との回答が最も多い。課題・問題については、北海道では、「飼料費増加」、都府県では、「特になし」との回答が最も多い。
- ・ 経営・運営の現状及び今後の見通しについては、「やや問題」との回答が過半数を占め、現状の問題としては、「資金繰り」、今後の問題としては、「労働力の不足」との回答が多い。

TMR利用による構成員の経営への効果



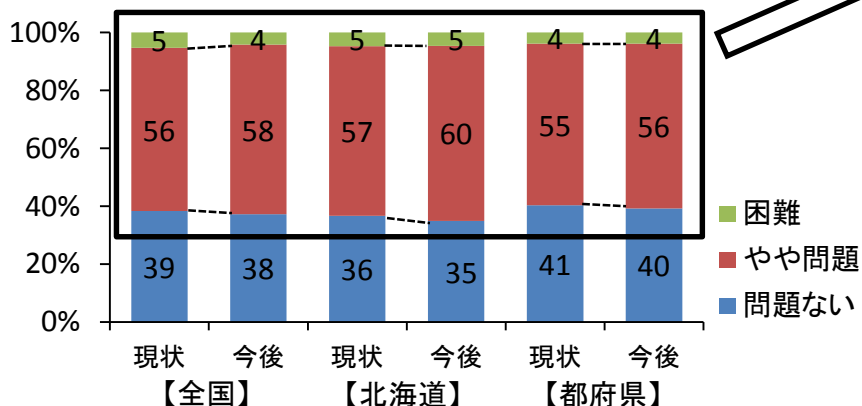
注)回答数:93箇所(北海道42、都府県51)※複数回答あり

TMR利用による構成員の経営への課題・問題



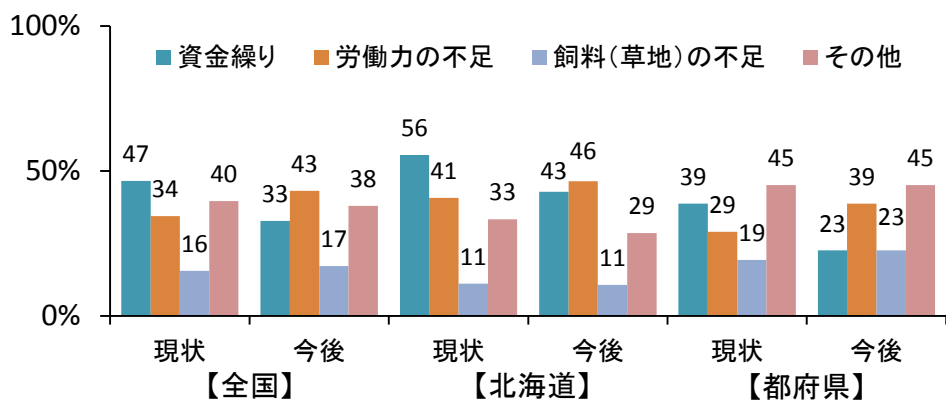
注)回答数:91箇所(北海道40、都府県51)※複数回答あり

TMRセンターの経営・運営



注)回答数:94箇所(北海道(現状42、今後43)、都府県(現状52、今後51))

具体的な問題点



注)回答数:現状58箇所、今後59箇所(北海道(現状27、今後28)、都府県(現状31、今後31))※複数回答あり